研究構想図

本校の教育目標

人間尊重の精神を基調とし、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を備え、他者と共同して高い志をもち、新たな時代を切り拓く資質と能力をもつ児童を育成する。

考えて行動する子　思いやりのある子　きたえる子

児童の実態

○素直に話を聞き、真面目に取り組める。
○学習への姿勢が十分に定着していない。
○学力の二極化が顕著である。
○学習に対し指示されたことは取り組むが自ら考えて取り組むことが課題である。

教員の実態

○校内研究組織の形骸化
○教員が自らの指導力に自信がない
○新型コロナウィルス感染拡大で資質・能力を高める機会が激減

研究の背景

○「学習指導要領」（平成 29 年度告示）
一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら（中略）豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる。

○「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により児童一人一人の可能性を引き出す。

○「ＧＩＧＡスクール構想」
ＩＣＴで「学習の見通し」「状況の把握」「学習方法の見出し」「学びの振り返り」活用する。

研究主題

見つめ、見つけ、共に伸びゆく児童の育成

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業研究

	目指す教師像	目指す児童像
見つめる	・研究研鑽に励み、専門性を高める教師 ・実態に応じた学習課題を設定できる教師	・自ら学習状況を把握し、課題を立てることができる児童
見つける	・児童一人一人の実態に応じた学習活動評価法、手立て、支援等が行える教師	・学習方法を選び、課題解決に取り組む児童 ・自らの学習状況に応じて調整ができる児童
共に伸びる	・児童人一人の良い点や可能性を生かした協働場面を設定できる教師	・自ら意図した交流で「学び方を学ぶ」児童 ・他者との交流で学びを広げ深める児童

研究仮説

個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）を推進するために教師が専門性を高め、児童一人一人の実態に応じた学習課題や学習活動を提供・設定し、児童が互いの時間や活動を共にする協働的な学びを充実させることで、児童は自己の学習状況を把握して課題を見つけ、以下の目標をもち、よりよく学び、自ら伸びゆく力を身に付けることができるだろう。

研究主題に迫る手立て

個別最適な学び　一体的な充実　**協働的な学び**

○個に応じた指導計画・評価計画　【個別】
○意欲につながる自己評価の工夫　【個別】
○確認テストで基礎力の定着　【個別】
○興味を引き出す導入の工夫　【個性】
○教科や領域による単元計画の工夫　【個性】

○内容や解決法、身に付けたい力等に応じたグループ編成
○相互評価でメタ認知能力の向上
○話合い活動の充実
○特別支援学級や地域等による交流学習

基礎基本の学力の定着
・朝学習　・放課後学習教室
・学習規律の定着　・家庭学習の手引き

地域・保護者との連携
地域の人的・物的資源の活用による
カリキュラムマネジメント

ＩＣＴの活用
〈教員〉学習状況の把握、資料活用、個別の評価
〈児童〉学び共同（収集、共有、参照）学びの振り返り

多様な人々との交流
・通常の学級と特別支援学級との交流
・異学年間交流　・市外や海外との交流